

山武市青少年相談員事業 ドッジボール大会競技規則

I. チーム

1. チーム編成

- ① 1チーム7人以上15人以下で、男女混合チームとする。
- ② チームは、男女それぞれ1人以上含むものとする。
- ③ 参加対象学年内であれば学年をこえて合同チームを組むことができる。
- ④ 複数の学校でチームを結成することができる。
- ⑤ 1人の選手が2つのチームに所属して参加することはできない。
- ⑥ チーム間のメンバー交換を禁止する。

2. プレイヤーの配置

- ① コート内でプレイするプレイヤーは、10人とする。
ただし、9人以下チームは、プレイヤー全員を出場させること。
- ② 外野は、3人配置する。

3. プレイヤーの交代

- ① 1ゲームにチーム全員が出場できるように交代を行う。
チーム全員が出られなかった場合は、失格とする。
- ② 試合中コート上のプレイヤーはセット中交代することはできない。
- ③ 各セット間の休憩時間中にプレイヤーの交代が認められる。
- ④ プレイ中、負傷者（急病人等）が発生した場合、主審の判断のうえ、プレイヤーの交代をすることができる。

II. 用具、装備品

- ① ボールはソフトバレーボール（5号）（周囲77～79cm）を使用する。
- ② 持ち込み可能な装備は以下のもの
 - ・ 膝あてや肘あてのサポーター（プラスチックのついていないもの）
 - ・ 布製のリストバンド
 - ・ ヘアバンド

III. 競技方法

1. 試合時間

原則として、1セットにつき5分とし、2セットマッチで行う。

2. 試合形式

試合は、原則として予選はリーグ戦方式で行い、決勝はトーナメント戦方式とする。

3. 勝敗の基準と勝ち点

- ① セット終了後、内野人数の多いチームがそのセットの勝ちとなる。
- ② 内野人数が同数の場合はそのセットは引き分けとする。
- ③ 時間内でも内野にいる選手が1人もいなくなってしまう場合は、その時点でそのチームの負けとなる。
- ④ セットポイントは勝ったほうが3点、引き分けは1点、負けは0点とする。

- ⑤試合自体の勝敗は、セットポイントの多いほうを勝ちとするが、セットポイントが同数の場合は、1・2セットの内野人数の合計の多いほうを勝ちとする。内野人数の合計も同数の場合はその試合自体を引き分けとする。
- ⑥勝利チームは勝ち点3、引き分けは両チームとも勝ち点1、敗退チームは勝ち点0とする。

4. 順位の基準

- ①各チームの1・2試合の勝ち点合計の多いほうを勝ちとする。同数の場合はセットポイントの合計を比べて、それも同数だった場合は内野人数の合計を比べる。
- ②予選リーグにおいて複数のチームが同率になった場合、代表引率者立会いのもと、チームキャプテン同士のジャンケンによって順位を決する。

5. 試合放棄・不戦勝

- ①チームが欠席だった場合やプレイヤーが6人以下だった場合は、その相手チームを不戦勝とする。
ただし、試合は実施する。
- ②不戦勝の場合のセットポイント及び内野の人数は、セットポイント2対0、各セットの内野の人数は9対0とする。

IV. 主な規則

主な規則については、「日本ドッジボール協会 公式ルール」に準ずる。
一部ローカルルールを適用する。

1. ローカルルール

- ①試合は、必ず外野3人の体制から始める。
- ②外野は必ず1人残ることとする。(外野が居なくなることはない)
- ③外野(元外野も含む)は、相手を当てたら次のうちどちらかを選択すること
 - ア 速やかに内野に戻る
 - イ 内野に戻らず、外野に残る
(内野に戻りたい場合は、再度ボールを当てる必要がある)
- ④ダブル・トリプルアウトは有効とする。
- ⑤頭に当たった場合もアウトとする。
- ⑥ラインを越えて投げた場合は、相手ボールとなる。
※ラインを踏んだ場合もラインを越えたこととする。
※ラインを越えたボールに当たっても当たったことにはならない。
- ⑦当てられた人は外野に出るまでボールに触れないこと。触れた場合は相手ボールとする。
- ⑧内野同士のパスを行った場合、相手ボールとする。
- ⑨審判、スコアラー、椅子、机等に当たったボールはフリーボールとする。
- ⑩試合に関する抗議は一切認めない。(保護者含む)
- ⑪その他、不測の事態は主審・副審の判断とする。

V. 最後に

山武市青少年相談員連絡協議会のドッジボール大会は、青少年の育成を目的に行っています。スポーツマンシップに則って楽しく安全に行うようお願いいたします。